

【事例 1】

観察場所：加古郡播磨町大中, 2019年7月16日

同地の大中遺跡公園内で、タブノキの葉に付着した白色物質で、キマダラカメムシの成虫が吸汁するのを確認した。その性状から、この白色物は鳥の糞と考えられる。成虫が口吻の先端をさし込んでいたか、触れさせていただけかまでは観察できなかったが、頭部を小刻みに震わせるように動かしている状況から、吸汁と判断した。



図1 加古郡播磨町大中, 2019年7月16日.

【事例 2】

観察場所：加古郡播磨町大中, 2019年7月24日

同地に営巣したキムネクマバチの巣穴直下に、やや湿った様相の黄色物質が落下しており、そこに本種の幼虫が口吻をさし込んでいる状況を確認した。事例1と同様、頭部を小刻みに震わせており、吸汁と判断した。当時、キムネクマバチの巣内では蜂が営巣活動中であり、黄色物は巣穴直下にあったことから、巣内から落下もしくは排出された花粉などを含んでいた可能性が高いと思われる。



図2 加古郡播磨町大中, 2019年7月24日.

(Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市
兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会)

姫路市初記録となるベニトンボを採集

石田真載・石田哲哉

2019年11月4日、兵庫県では3例目、(2016神戸市, 2017淡路島) 姫路市では初記録となる、ベニトンボ *Tritheimis aurora* (Bermeister 1839), 1♂ (図1) を採集したので報告する。



図1 1♂ 兵庫県姫路市飾磨区中島 2019.XI.4.



図2 市川河口の採集場所.

場所は、兵庫県姫路市飾磨区中島2626、浜手緑地近辺の市川河口付近の河川敷 (GPS座標: 34.78823, 134.68609, 図2) で平坦な砂利の上に倒れた枯れ枝に静止した個体を採集した。周囲を探索したが、他の個体は見られず、また国道を隔てた緑地には、繁殖に適した野鳥観察池もあるが、この場所で同日に他のトンボも見られていない事から、この雄は単独で飛来したものと考えられる。

本種は、南方系のトンボでありながら年々北上している事で知られ瀬戸内海の対岸にあたる徳島県では定着が確認されており、姫路市でも沿岸部を中心に定着の有無を調査する必要がある。筆者らは、2019年より「姫路市の水辺のトンボ」という題で夏の自由研究をまとめており、標本は2020年の研究発表に本稿と合わせ添付する予定である。

最後に兵庫県での記録についてご教示くださった東輝弥氏, 宮武頼夫氏, 青木典司氏に深謝申し上げる。

○参考文献

神戸のトンボ: 兵庫県とその近隣のトンボたち・ベニトンボ. <http://www.odonata.jp/O1live/Libellulidae/Trithemis/aurora/index.html>

豊崎 勲・山田量崇・大原賢二, 2009. 徳島県におけるベニトンボの調査記録: 徳島県立博物館研究報告, No.19: 39-44.

(Makoto ISHIDA 姫路市立城北小学校4年)
(Akikoto ISHIDA NPO法人こどもとむしの会)

ベニトンボを加西市で撮影

三浦喜太郎

ベニトンボ *Trithemis aurora* (Burmeister, 1839) は東洋熱帯に広く分布するトンボで、日本では南西諸島と九州に分布し、北に分布を拡大中である。兵庫県では2016年に神戸市、2017年に淡路市で確認されている。

筆者は2019年10月6日と10月9日に加西市古法華自然公園で撮影したので報告する。なお、6日と9日の個体は同一のものと推定され、その後は同地で確認できない。本誌に発表を勧め、同定していただいた東輝弥氏にお礼申し上げます。

2019年10月6日 夕方 加西市古法華自然公園内の古法華池 1♂撮影 (図1)

2019年10月9日 上記と同一場所 1♂撮影 (図2)

○参考文献

稲畑憲昭, 2017. 淡路島初記録となるベニトンボを採集. *きべりはむし* 41(1): 40-41.

村重隆, 2018. 神戸市でベニトンボを採集. *Gracile* 78: 23.

(Yoshitarô MIURA 兵庫県加古川市)



図1 2019年10月6日 15時35分 撮影.



図2 2019年10月9日 11時37分 撮影.

兵庫県におけるセスジシミの記録

池田健一・池田一弥

セスジシミ *Ctenolepisma lineata pilifera* (Lucas) はシミ目シミ科の汎世界種で、褐色を基調とし、体軸に沿った数条の縞模様の体色があるという特徴から他種と区別される種である (町田・増本, 2006). 日本では奈良県都祁村 (現奈良市), 新潟県長岡市, 富山県八尾町, 東京都足立区, 茨城県つくば市で報告された後 (町田・増本, 2006), 群馬県みどり市 (中村, 2007), 栃木県真岡市 (中山, 2008), 茨城県守谷市 (青木ら, 2009), 神奈川県横須賀市 (川島, 2014), 東京都千代田区 (笹井, 2015) と散発的に記録があり, 分布を広げているとされる (町田・増本, 2006). 生態としては6~12月の夜間に目撃され, 家屋内部構造の隙間に生息し, 実験的に呈示した食パンやティッシュペーパーを摂食した報告がある (青木ら, 2009). 兵庫県下ではインターネット上では本種が分布するとされる情報は散見されるものの, 文献上での報告は行われていない.

筆者らは本種を2006年4月8日8時頃に兵庫県神戸市西区の民家内にてセスジシミを撮影したのでここに報告する (写真). 和室のふすま上を徘徊する様子が見られた. 本種が発見された地域は新興住宅地が多数みら